ミコ〔瞋恚のほむらは、シテ身をこがす、

〔運歩色葉集景〕逆鱗。貞觀政要云、龍可撮而馴、然喉下有逆鱗、觸之則殺人、文人主亦有逆鱗、

〔書言字考節用集九辭言〕逆鱗（グキリン）王者忿怒之義、事見韓非子說難、

〔類聚名物考言語七〕逆鱗　げきりん

天子を龍にたとへ奉れば、なに事にも、龍をもてたとへ奉る事有り、よて逆鱗も龍の事によせて、怒ませしことを申なり、

〔海人藻芥〕逆鱗者帝王ニ限テ云事ナリ、腹立ハ尋常人ノ事也、

〔倭訓栞後編十二〕つこと。俗語也、突言なるべし、怒氣相含ていふをつこふと聲などいへり、

〔愼思錄四〕怒者先自傷而後傷人、故傷人者、自傷之餘也、然比至傷人、則自傷增甚、

〔愼思錄六〕忿怒之發也、往々於對妻孥奴僕、是因易驕恣也、須於此忍容、雖卑賤不可侮辱、

〔秦山集四十五箴井序〕五箴中略○

懲怒箴

怒之在人、當然自天、苟或不察、忘身及親、嗟予小子、急性多欲、一事乖意、忿怒決裂、火炎崑岡、豈問市室、氣暴情勝、羝羊觸藩、喪身僨事、噬臍何言、先覺有教、惟懲惟戒、劈山摧暴、履霜思害、制怒之方、要在乎此、顏之好學、不遷怒矣、程之定性、忘怒觀理、想厥氣象、明鏡止水、豈敢云爾、高山仰止、

〔拾芥抄下末諸教誡〕源信僧都四十一箇條起請

應重禁制條々

一設雖有不叶心事、思忍不起瞋恚、○中略

已上四十一箇條、可如眼精矣、

〔日本書紀一神代〕是時天照大神驚動以梭傷身、由此發慍（イカリマシテ）、乃入于天石窟、閉磐戸而幽居焉、